

京都歴史教育者協議会 9月例会 (9 / 19)

～青年社会科教師の奮闘に学ぶシリーズ 第1弾～

京都歴史教育者協議会は京都の社会科教師で結成している自主的な学習サークルです。以下のような学習会を企画しました。みなさんの積極的なご参加をお待ちしています。

【連絡先】〒611-0031 宇治市広野町八軒屋谷 33-1 立命館宇治高校気付 森口 等
☎0774-41-3000 FAX☎0774-41-3555 メール moriguti@ujc.ritsume.ac.jp

* テーマ

「ホロコーストを生徒にどう教えたのか？」～ドイツと日本の戦後処理の違いをめぐって
* 報告者 篠原 貴明さん (京都女子中学・高校)

立命館大学文学部西洋史専攻を卒業後、進学塾や向日市立寺戸中学に勤務後、現在京都女子中学高校で意欲的に授業に取り組んで2年目の青年教師。

* 日時 9 / 19 (土) 15 : 00 ~ 17 : 30 (予定)

* 場所 同志社中学会議室 (いつものクローバーハウスではありませんので、ご注意ください)

地下鉄「今出川」下車、3番出口を出て烏丸今出川交差点を烏丸通りに沿って北に進み、門をに入って、直進し、チャペルを北(左折)へ。その後、グラウンドの手前を西(左折)し、中学の中庭のプレハブの建物へ!

* 内容

戦後64年目の夏。日本では未だに戦後の処理が終わらず、補償を巡る裁判も継続されています。そればかりか、首相の靖国参拝が行なわれ、日の丸・君が代の「国旗・国歌法」が制定され、学校現場



での強制が進むなど、戦前回帰のような状況すら見受けられています。

そのような中で、「戦争をどのように生徒に伝えるのか」「戦後処理のあり方をどのように考えさせるのか?」は、社会科教師の重要な課題になって来ています。

篠原さんは、南京大虐殺なども意欲的に教材化し、その後、「ホロコースト」



に関して、次のような目標を設定し、生徒に挑んできました。

- 1) 映像資料「夜と霧」をみせてホロコーストの概要を学ぶ
- 2) 戦後のドイツでのナチスやヒトラー評価の変化を学び、「過去の克服」に取り組む経緯を学ぶ
- 3) 「過去の克服」の具体的な取り組みについて、日本との比較から自分なりの考えを持つ
- 4) 「過去の克服」についての自分なりの問題意識を持ち、日本と東アジアの歴史問題に目を向けさせる

それ以外にも、夏休みには、「従軍慰安婦」「731部隊」「靖国神社」「特攻」などについてのレポート課題をだして、生徒に「平和を考えるまなざし」をつけさせる努力をしておられます。

今回の例会では、そのような青年教師の奮闘から、改めて「戦争をどう教えるのか?」について、深めあいたいと思います。多くの皆様のご出席をよろしく願います。(写真は篠原さんに提供していただいたものです)

* 10月例会 10 / 24 (土) 大川 沙織さん(南陽高校)の報告です

* 11月例会 11 / 20 (金) ~ 21 (土) 近畿ブロック集会(和歌山市)